

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MB	学部・学科	国際教養
学 年	3	派遣国	イタリア
派遣大学	ベネチア大学		
期 間	2025年 9月 15日～ 年 6月 28日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / <u>アパート</u> / その他 ()					
部屋	<u>個室</u> / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (118000) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(バスと徒歩) で、約 (30～50) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	15000 円	スーパーで食材を買う日がほとんど。
学用品購入費	0 円	
交通費	4500 円	ひと月あたり25€でバストラム水上バスが乗り放題。
交際費	4000 円	友人と外食など。
その他	40000 円	旅費+通信料金など。

合計

約 65000 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

Marghera は移民が多く、通りにによって雰囲気には差がある地域である。私の住む通りは比較的落ち着いたが、少し離れると不安を感じる場所もあるため、夜に一人で出歩くことはほとんどない。ただし、Mestre 駅前と比べると比較的安全であると感じる。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海外学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(138616) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**Marghera**)

Venice は運河や歴史的建築で知られる世界的観光都市であり、多くの観光客が訪れるため英語が通じやすい。一方、Marghera は工業地域・住宅地域として発展した地域であり、観光地化されていないため、イタリア語のみを話す住民も多い。また、ヴェネツィア本島と比べると緑が多く、生活感のある落ち着いた雰囲気が特徴である。スーパーや飲食店などは観光地価格ではなく、日常的な暮らしに近い環境が広がっている。

【学業編】

1. 大学情報

大学	Ca' Foscari University of Venice	所在地	ベネチア
最寄空港	マルコポーロ空港	空港からの距離	約 14km
空港⇄大学	(バス or 水上バス) *移動手段		
学生数	約 23,000 人	留学生数	1500 人
学部	Economics (経済学) Philosophy and Cultural Heritage (哲学・文化遺産) Venice School of Management (経営学) Environmental Sciences, Informatics and Statistics (環境科学・情報学・統計学) Molecular Sciences and Nanosystems (分子科学・ナノサイエンス) Linguistics and Comparative Cultural Studies (言語・比較文化) Asian and North African Studies (アジア・北アフリカ研究) Humanities (人文学)		
	*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	所属していない *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(2)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	History and Institutions of Modern and Contemporary Korea	History of Venice	Venetian Art and Archaeology	History of Venice	Religion of Contemporary Southeast Asia
午後		Venetian Art and Archaeology 日本語ボランティア		日本語ボランティア Buddhism: Culture and Society	

② (2)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Cross Cultural Communication, Diversity and Inclusion AN OPEN CITY IN HISTORICAL PERSPECTIVE: VENICE Contemporary History of Venice	Cross Cultural Communication, Diversity and Inclusion Contemporary History of Venice	Food & Beverage Management AN OPEN CITY IN HISTORICAL PERSPECTIVE: VENICE	Food & Beverage Management AN OPEN CITY IN HISTORICAL PERSPECTIVE: VENICE	Storia della Cultura Nordamericana

午後	Italian Culture and Made in Italy	Food & Beverage Management Venetian Art and Archaeology 2 Italian Culture and Made in Italy		Venetian Art and Archaeology 2	
----	---	---	--	--------------------------------------	--

3. 履修内容

科目	History and Institutions of Modern and Contemporary Korea		
履修期間	第一セメスター	単位数	6
授業内容／形態	本授業では、1876 年から現代に至るまでの韓国近現代史を体系的に学び、政治・経済・社会における主要な変動を歴史的文脈の中で理解することを目的としている。韓国の開国、日本による植民地支配、解放、朝鮮戦争、経済発展、民主化、1990 年代以降のグローバル化など、多様な時代の転換を扱い、韓国の近代的経験を世界史の流れの中で考察する視点を養う。		
成績	27/30		
YCU 振替予定	科目	韓国朝鮮研究	
	単位数		
	担当教員		

科目	Religion of Contemporary Southeast Asia		
履修期間	第一セメスター	単位数	6
授業内容／形態	本授業は、現代東南アジアにおける宗教人類学を学ぶものである。経典よりも社会的・文化的側面に焦点を当て、民族誌を中心に宗教と政治・経済の関係、占いや憑依などの宗教現象を考察する。宗教を通して東南アジア社会の多様な文化を理解することを目的としている。		
成績	Thirty with honors		
YCU 振替予定	科目	アジア地域論	
	単位数		
	担当教員		

科目	History of Venice		
履修期間	第一セメスター	単位数	6
授業内容／形態	本授業は、中世から共和国末期に至るまでのヴェネツィアおよびヴェネツィア国家の歴史を、制度的・社会的・経済的側面を関連づけて考察するものである。特に 14～16 世紀のルネサンス期に焦点を当て、当時のヴェネツィアの多面的な発展を理解することを目的としている。		
成績	24/30		
YCU 振替予定	科目	ヨーロッパ史	
	単位数		
	担当教員		

科目	Venetian Art and Archaeology		
履修期間	第一セメスター	単位数	6
授業内容／形態	本授業は、ヴェネツィアの建設期からヴェネツィア共和国崩壊までの美術の発展を探究するものである。特異な地形的条件を踏まえ、中世後期から19世紀に至る主要なヴェネツィア美術作品を歴史的・文化的文脈の中で考察する。		
成績	28/30		
YCU 振替予定	科目	芸術社会論	
	単位数		
	担当教員		

科目	Buddhism: Culture and Society		
履修期間	第一セメスター	単位数	6
授業内容／形態	本授業は、主に文化人類学的視点から仏教を学ぶものである。仏教を、時代や社会の変化に応じて発展してきた動的な宗教として捉え、特に東南アジアにおける多様な仏教伝統、経典と実践の関係、瞑想や宇宙観などを考察する。		
成績	26/30		
YCU 振替予定	科目	東南アジア史	
	単位数		
	担当教員		

科目	Food & Beverage Management		
履修期間	第三ターム	単位数	6
授業内容／形態	食品・飲料産業における経営やマーケティング、サービス運営について学ぶ授業。レストランや観光業におけるフードビジネスの仕組みやマネジメントを理解する。		
成績	29/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数		
	担当教員		

科目	Cross Cultural Communication, Diversity and Inclusion		
履修期間	第三ターム	単位数	6
授業内容／形態	観光を人類学の視点から分析し、観光客と地域住民の相互作用、観光の社会・文化・環境への影響、持続可能で倫理的な観光の可能性について学ぶ。また、観光研究のための基礎的な人類学的調査方法を習得する。フィールドワークあり。		
成績	29/30		
YCU 振替予定	科目	海外留学科目群	
	単位数		
	担当教員		

科目	Venetian Art and Archaeology 2		
履修期間	第二セメスター	単位数	6
授業内容／形態	ヴェネツィア共和国が影響を与えた地中海・アドリア海地域の芸術、建築、考古学的遺産について学ぶ授業。ヴェネツィア文化の広がりと歴史的影響を理解する。		
成績	30/30		
YCU 振替予定	科目	現代美術論	
	単位数		
	担当教員		
科目	Contemporary History of Venice		
履修期間	第二セメスター	単位数	6
授業内容／形態	ヴェネツィア共和国崩壊後から現代までの歴史を学ぶ授業である。産業化、世界大戦、ファシズム、観光問題など、現代ヴェネツィアが抱える課題についても扱う。		
成績	28/30		
YCU 振替予定	科目	歴史学	
	単位数		
	担当教員		

科目	AN OPEN CITY IN HISTORICAL PERSPECTIVE: VENICE		
履修期間	第三ターム	単位数	6
授業内容／形態	本授業は、観光学における人文学・社会文化的視点を学ぶ科目である。観光とホスピタリティに必要な歴史・文化遺産・コミュニケーションの知識を深め、地域や社会を理解するうえで歴史を学ぶ重要性について考察する。		
成績	26/30		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Italian Culture and Made in Italy		
履修期間	第二セメスター	単位数	6
授業内容／形態	イタリア文化や「Made in Italy」のブランド価値（ファッション、デザイン、食文化など）について学び、イタリア文化と産業の関係を理解する。		
成績	26/30		
YCU 振替予定	科目	European Culture in English	
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

今回の留学生生活を通して、私は語学力だけではなく、自分自身の考え方や価値観、生活力についても大きく成長することができたと感じている。

まず、一人暮らしを経験したことで、以前よりも生活力が身についた。日本にいた頃は家族に頼る部分が多かったが、イタリアでは掃除、洗濯、買い物、料理など、すべてを自分で管理しなければならなかった。特に食事面では、日本食が恋しくなることが多く、日本の調味料や食材が簡単には手に入らない中で、できるだけ日本の味を再現しようと工夫した。限られた材料を使って味噌汁やカレー、和風のおかずを作るために時間をかけて調べたり、試行錯誤したりした経験は、自分の適応力や工夫する力につながったと思う。

また、ヨーロッパのさまざまな国を旅行したことで、多くの発見があった。ヨーロッパは一つの地域として似た印象を持っていたが、実際には国によって人々の性格、文化、街の雰囲気、物価、価値観などが大きく異なっていた。例えば、同じヨーロッパでも国によって時間感覚や接客態度、人との距離感などが違い、その違いを実際に体験できたことは非常に貴重だった。旅行を通して、自分の中にあった固定観念が少しずつ崩れていったように感じる。さらに、英語が第一言語ではない国で生活することの難しさも実感した。イタリアでは英語が通じない場面も多く、役所や病院、スーパーなどの日常生活の中で困ることもあった。言語が十分に通じないことで不安を感じることもあり、日本で当たり前に行っていたことのありがたさを改めて理解した。一方で、完璧な言語力がなくても、相手に伝えようとする姿勢や積極性が大切であることも学んだ。

大学での勉強についても、日本との違いを感じた。私は留学前、「イタリアの大学生活はもっと自由でゆったりしているのではないか」というイメージを持っていた。しかし実際には、課題や論文を読む量も多く、休みも想像より少なかった。また、多くの学生が授業に真剣に取り組んでおり、自分の意見を積極的に発言していたことが印象的だった。英語やイタリア語で論文を読むことは簡単ではなく、理解するのに時間がかかったが、その分、忍耐力や読解力が鍛えられたと思う。

このような経験を通して、私は「ステレオタイプで物事を判断してはいけない」ということを強く感じた。実際に現地で生活してみると、自分が持っていたイメージとは異なる部分が多くあった。国や文化を一つのイメージだけで決めつけることの危険さを学び、物事を多面的に見ることの大切さに気づくことができた。

また、他の日本人留学生や現地のイタリア人学生との会話を通して、「将来どこの国に住みたいか」「どこで働きたいか」について考える機会も増えた。留学前は海外生活に対して理想的なイメージを持っていた部分もあったが、実際に生活してみると、どの国にも良いところと大変なところの両方があることが分かった。そのため、一つの国だけを理想化するのではなく、自分がどのような環境で暮らしたいのかを現実的に考えるようになった。

今は日本が恋しく感じることも多いが、同時に、帰国した後にはイタリアでの生活も恋しくなるのだろうと思う。それだけ、この留学生生活は自分にとって特別で大きな意味を持つ経験だった。今回の留学によって、自分の将来の選択肢や価値観が広がったことは、何よりも大きな学びだったと感じている。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

今回の留学で得た経験は、今後の進路や人生において大きな財産になると考えている。特に、約 9 か月半イタリアで生活したことで、観光では分からない現地の文化や習慣、食生活、人々の価値観に触れることができた。この経験を活かし、将来はイタリアに関わる仕事や国際的な交流ができる分野に携わりたいと考えている。

留学中は、日本食が恋しくなり、自分で料理を作る機会が多くあった。また、現地の友人に日本食の作り方を教えることもあり、日本の食文化について改めて考えるきっかけとなった。一方で、イタリア人の友人からはパスタやリゾットなどの家庭料理の作り方を教えてもらい、イタリアの食文化への理解を深めることができた。このような交流を通して、食べ物は単なる食事ではなく、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションの手段であることを実感した。

また、大学生活や旅行を通して、さまざまな国のの人々と交流する機会があった。異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションを取る中で、自分の英語力だけでなく、相手を理解しようとする姿勢や積極性の大切さを学んだ。今後もこの姿勢を忘れず、多様な価値観を持つ人々と関わり続けたいと思う。

さらに、授業では英語で論文を読む機会が多く、内容を理解するために時間をかけて取り組んだ。簡単なことではなかったが、最後まで諦めずに努力したことで、読解力や学習への忍耐力を身につけることができた。この経験は今後の大学での学習や社会人として働く際にも活かせると考えている。

そして何より、この留学を通して新しいことに挑戦する大切さを学んだ。海外で生活すること、外国語で学ぶこと、一人で旅行することなど、多くのことが初めての経験だった。しかし、実際に挑戦してみることで自分の可能性を広げることができた。これからも留学で培ったチャレンジ精神を忘れず、新しい環境や機会に積極的に飛び込んでいきたいと思う。また、イタリアで得た知識や人とのつながりを大切にしながら、日本とイタリアを結ぶような活動にも積極的に関わっていきたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学を希望する後輩へのアドバイスとして、まず現地の言語を留学前から少しでも勉強しておくことが大切だと思う。私自身、留学前の約 1 年間イタリア語を少しずつ勉強していたため、現地に到着して間もない頃に役立つ場面が多くあった。授業は英語で受けることができて、スーパーでの買い物やレストランでの注文、公共交通機関の利用など、日常生活ではイタリア語が必要になることも少なくなかった。そのため、基本的な表現だけでも知っておくと安心できると思う。

また、持ち物の準備も重要である。現地でも多くの物は購入できるが、日本の調味料や食品は手に入りにくかったり、日本より高価だったりすることがあった。私は味噌汁やだしなどを持参していたため、日本食が恋しくなったときに助けられた。特に長期間の留学では、日本の味が想像以上に恋しくなることもあるので、自分が普段よく使うものについては事前に確認しておくとういと思う。

さらに、友人関係については、留学が始まった最初の時期が特に大切だと感じた。私の周りでも、多くの学生が最初の数週間で友人関係を築いていた。最初は緊張するかもしれないが、授業やイベントなどで少し勇気を出して話しかけることで、新しい出会いにつながるが多かった。また、交流する相手についても、自分と似た興味を持つ人だけでなく、さまざまな背景を持つ人と関わる大切だと感じた。私の場合、日本に興味を持っているイタリア人と交流する機会が多かったが、それだけでなく、日本についてあまり知らない人や特別な関心を持っていない人と話すことで、新しい視点を得ることができた。そうした人たちとの会話では、日本について客観的な意見を聞くことができたり、自分自身が当たり前だと思っていた文化を改めて見つめ直したりする機会があった。留学では、自分と共通点の多い人だけでなく、異なる価値観を持つ人とも積極的に交流することで、より視野を広げることができると思う。

また、日本人が多い大学では、日本人同士で過ごす時間が自然と増えることもある。私自身も日本人の友人には助けられたが、現地の学生や他国からの留学生と交流したことで、異なる価値観や文化に触れることができ、留学ならではの学びを得ることができた。

そして、留学中は意外と自由な時間ができることもあった。私はその時間を使ってイタリア語、中国語や投資の勉強や旅行の計画を立てたりしていた。日本にいと忙しくてなかなかできないことに挑戦できるのも留学の魅力の一つだと思う。留学生活はあっという間に終わってしまうため、不安を抱えず、自分からさまざまなことに挑戦してみることが大切だと感じた。